



平成20年3月

けいはんな新産業創出ニュースレター第3号

(会員さま配布資料)

<目次>

本号におけるけいはんなのトピック・・・・・・・・・・ P 1

本号の注目企業(関西・京都)・・・・・・・・・・ P 2 ~ 5

中部地域の注目企業・・・・・・・・・・ P 6 ~ 8

センター情報・・・・・・・・・・ P 9 ~ 12

事業化情報・・・・・・・・・・ P 13

会員の皆さまへ・・・・・・・・・・ P 13

発行：けいはんな新産業創出・交流センター 大阪オフィス

〒 530-6691 大阪市北区中之島6-2-27 中之島センタービル24F

電話 06-6441-9213 FAX 06-6441-9347 発行人 佐藤有彦 担当 天野了一

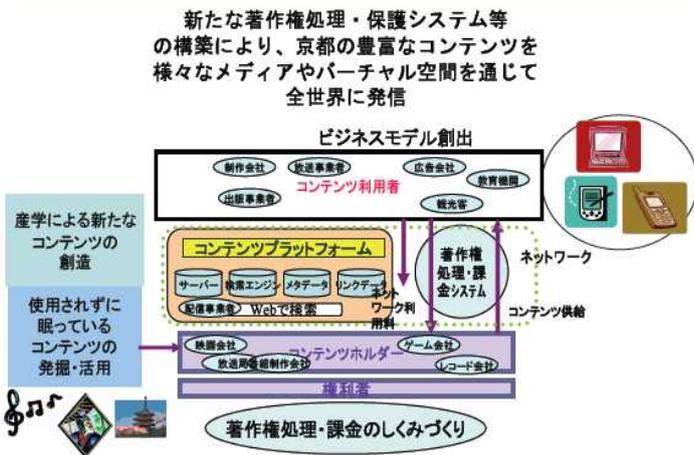
< 本号におけるけいはんなのトピック >

けいはんな関係の2件が、「ユビキタス特区」の対象プロジェクトに指定

2008年1月25日、総務省「ユビキタス特区」*の第一次決定で、けいはんな学研都市関係の「観光立国」と「環境立国」の2件の類型が、国の予算支援を伴うプロジェクトとして、内定を受けました(全国188件の申請、第一次で内定された類型は7件)。今後、この2プロジェクトに係る正式認定を目指してまいりますので、一層のご支援、ご協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

*...「ユビキタス特区」は、「ICT改革促進プログラム」(2007年4月総務大臣発表)の国際競争力の強化策。特区内は世界最先端のICTサービスを開発・実証できる環境を整備するとともに、他国の「ユビキタス姉妹特区」と連携し、日本の主導するICT技術の国際展開を図る。特区内では、ユビキタス社会実現のため、電波の免許を緩和し、情報電波の空き周波数帯域の利用が認められる。今後、続いて第二次の内定も行われる予定であり、けいはんな地域としては、そこでも別の類型による認定獲得を目指します。

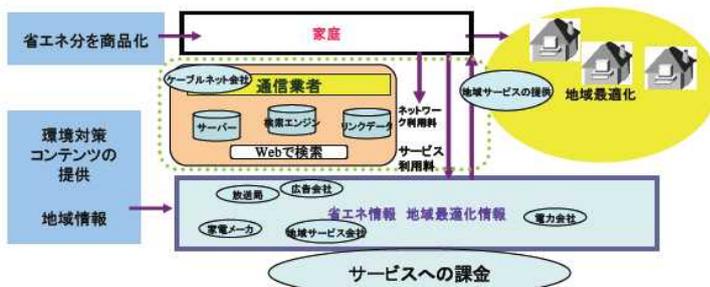
ユビキタス特区観光立国 コンテンツの創造・活用と京都の魅力の発信



「ユビキタス特区観光立国」：自治体、ATRや民間企業、京都大学、同志社大学、立命館大学など36社・団体で構成する研究会が申請。京都の観光コンテンツを活用し、多言語翻訳機能付きの携帯電話による外国人観光客等への情報提供を行い、事業化の可能性を検討します。

ユビキタス特区環境立国 PLCを使った省エネモニタ

電力線通信を使った家電製品省エネモニタシステムとネットワークサービスを接続、地域の省エネサービスを提供し、地域省エネ化を推進する



「ユビキタス特区環境立国」：電機メーカーの申請で、電力線通信を活用した家電の利用状況のモニタリングによる地域省エネ化技術の開発、実証を行なう取り組みです。

(本件に係るお問い合わせ先)

けいはんな新産業創出・交流センター
プロジェクト総括部 伊藤正也

TEL:0774-98-2230、

URL: ito.masaya@keihanna-plaza.co.jp

<本号の注目企業・関西地域> (京都地区分は、京都リサーチパーク(株)からのご紹介)

株式会社 デジタルマックス

- ・設立：2000年
- ・資本金：9050万円
- ・代表：代表取締役 垣内 重栄
- ・特筆事項：
 - 2004年度「[中小企業庁長官特別賞](#)」及び「[グッドデザイン賞](#)」を受賞
 - 2005年度「[グッドデザイン賞](#)」を2年連続で受賞
- ・事業内容：
 - ・3Dダイレクトメール送信サービス、3Dマーケティングリサーチ、eCRM(顧客感性反応分析)、3Dコンテンツ自動撮影システム、コンテンツ制作(企画・提案・制作)

<注目点>

- ・ホームページ上で、書籍のように[ページ送り画像が見られる「デジタルブック・デジタルカタログ」](#)(3D動画のカタログ)では、[国内シェアNO1](#)。
- ・DTP、HP製作、3D・スライドショー・パノラマ、映像(撮影～編集)、BOOK表現等は、全て一社(=ワンストップ)で製作が可能。
- ・上記の技術を全て「デジタルブック・デジタルカタログ」の中に取り込むことができ、[本の中から3Dや動画](#)、さらに[人までも飛び出す](#)。本では表せない表現が可能な[業界初](#)の技術を保有。
- ・どのページのどの部分がどのくらい閲覧されているかデータが捕捉できるという、本では不可能な[CRM\(マーケティングリサーチ\)機能](#)も搭載。



Copyright(c)2007. DigitalMax Co.,Ltd. All rights reserved.

- ・連絡先：〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町1-4-2
千里ライフサイエンスセンタービル12階
TEL：06-4863-5077、URL：<http://www.digitalmax.jp/>

ジェイ・クオリティ 株式会社

- ・設立：2007年
- ・資本金：800万円
- ・代表：代表取締役 西村 明
- ・特筆事項：
 - ・あえて少量生産・少量販売のロングテールを進むが、内容的にも輝くことが目標。
 - ・独自の工場は持たず、顧客の近隣の製造業者と契約し、装置の製造・保守点検を任せ、契約料を主たる収入とする。
- ・事業内容：
 - 生産設備の企画・開発受託・販売
 - 検査システムの開発・製作・販売
 - サービスロボットの企画・開発受託

3D ロボビジョン

<注目点>

- ・部品を高速で外観検査するロボット、「ロボビジョン」。ロボットのアームの先端に付けた高精度カメラが、台上の製品の周囲を素早く動き回り、表面の傷や破損、混入した異物を調べる。自動化の進んだ生産工程と違って、まだ人の目に頼る部分が多い、検査部門の効率化を図るもの。2007年秋、東京で開催された国際ロボット展に出展。
- ・また、顧客の製品が、実際にロボビジョンで扱えるか否かを、事前に無料で試験するサービスも実施中。
- ・他にも、工場内の循環水や稼動状況を自動監視するシステムや、定期定量に搬送される物流について最適な搬送方法・経路をバーチャルに検証し、効率的物流をシミュレートするなどのソリューションを提供する。
- ・連絡先：(本社/診断所)
〒600-8815 京都府京都市下京区中堂寺粟田町 93 番地 京都リサーチパーク 6号館 306
TEL 075 - 321 - 4550、FAX 075 - 321-4557、URL <http://j-quality.co.jp>



インタクト 株式会社

- ・設立：1999年
- ・資本金：2600万円
- ・代表：代表取締役 則内 健司
- ・特筆事項：
 - ・ [2003年度京都中小企業技術大賞 優秀技術賞 受賞](#)
 - ・ 従来のカラムに比べ、高速化・高性能化された製品を開発。
 - ・ LC-MSの時代に適応し、[分析試料の範囲が広くても対応可能](#)
- ・事業内容：HPLCカラムの製造販売

<注目点>

- ・インタクト株式会社は、HPLCカラムの歴史を踏まえ、上記特筆事項の2つの技術を追求することを目的に設立。
- ・2000年に発売した [Cadenza CD-C18 は、世界最高理論段数 \(250 × 4.6mm で出荷時最高5万段\) を記録](#)。1本のODSカラムで実現できる最高の分解能を示す。この数値は [今なお世界記録](#)。高性能充填材の開発により、ハイスループットカラムでも高性能を発揮。内外のMSメーカーにおいても常用されるまでに至り、LC-MSにも有用である事が証明された。

<製品例：Cadenza CD-C18 >



Cadenza CD-C18 は、次世代のODS標準をめざした画期的なODSカラム。究極の3 μ m粒子テクノロジーが生み出す、究極のカラム効率(19万段/m)は、[現在の普及タイプ5 \$\mu\$ m ODS \(7 - 10万段/m\)の約2倍の性能](#)。

分析時間短縮や省溶媒など、今必要とされている要求に対応可能。

手間のかかる分離検討作業が楽に。

類縁体など、似た構造の分離改善が期待できる。

超高速分析がさらに向上。

低いpHでも高いpHでも安心して使用可能。

- ・連絡先：〒600-8813 京都市下京区中堂寺町 京都リサーチパーク
TEL：075-315-3006、FAX：075-315-3009
URL：<http://www.imtakt.com/> E-Mail：info@imtakt.com

株式会社 スマートテクノロジーズ

- ・設立：2000年8月
- ・資本金：1000万円
- ・代表：代表取締役 織田明俊
- ・特筆事項：企業の情報通信ネットワークの構築に、ワンストップサービスを提供。
- ・事業内容：
 1. WEBアプリケーションの開発、管理、運用
 2. WEB ページ作成
 3. ネットワークセキュリティシステムの構築、管理及びコンサルテーション
 4. オープンシステムに関する調査及びコンサルテーション
 5. オープンシステム環境及びネットワーク環境の構築、管理、インテグレーション
 6. インターネットシステム環境の構築、管理及びコンサルテーション
 7. 情報配線システム及び電気工事の施工・管理

<注目点および実績>

- ・企業の情報通信ネットワークの構築に対し、企画・コンサルティングの段階から、販売、設計・構築作業、機材販売、運用・保守作業まで一貫して手がける。
- ・ソフトウェア開発企業、ITインフラ企業、見本市主催企業、福利厚生サービス企業、商社、学校法人、ラジオ放送局等、様々な業種に、豊富なコンサルティング営業実績を持つ。特に、オープンシステム環境の構築に強みがあり、ホストコンピュータとの接続作業、異機種ワークステーションやPC間の接続等を含むシステム環境構築、分散処理ネットワーク環境構築等の一連の作業を、業種や業務内容に限定されず一貫した体制で提供する。
- ・また、管理業務を含む既存の基幹業務システムのダウンサイジング、ライトサイジングなどのインテグレーションサービスやコンサルテーションをハードウェア/ソフトウェアの両面から提供。様々な企業や組織の課題に対応し、ITビジネスをスケールアップさせるWebアプリケーションを開発することも可能。
- ・連絡先：〒600-8815 京都府京都市下京区中堂寺粟田町 93 番地
京都リサーチパーク 4号館 5階

TEL : 075-315-9173、FAX : 075-354-4161

URL:<http://www.smarttech.co.jp> E-mail:info@smarttech.co.jp



千里国際学園に対して、無線LANを活用した「すべての教室のコンピューター教室化」により、コンピュータを各教室でいつでも自由に使える環境を安価な費用で提供しています

株式会社 あの津技研

- ・設立：2007年9月
- ・資本金：1000万円
- ・代表：代表取締役 加藤 忠哉
- ・特筆事項：[\(独\)科学技術振興機構\(JST\)の地域結集型共同研究事業](#)で、2003年に始まった「[英虞湾再生プロジェクト](#)」から生まれた企業
- ・事業内容：汚泥凝集固化剤の製造



アゴクリーンP性能比較

項目	アゴクリーンP	セメント系・石灰系	有機高分子系
混合直後 pH * 1	中性	強アルカリ	中性
混合直後強度 * 2	瞬時	長時間必要	時間要す
発熱性	無し	発熱	無し
透水性 * 3	適度透水性	無し	無し
保水性 * 4	適度保水性	無い	過剰保水
植生 * 5	良好	不良	不良
土壌再利用	可能	不能	不能
築塊再利用	可能	特殊工法で可能	特殊工法で可能
崩壊法面	可能	特殊工法で可能	特殊工法で可能
産廃処理費用	不必要	必要	必要
転圧後掘起し * 6	可能	不能	可能

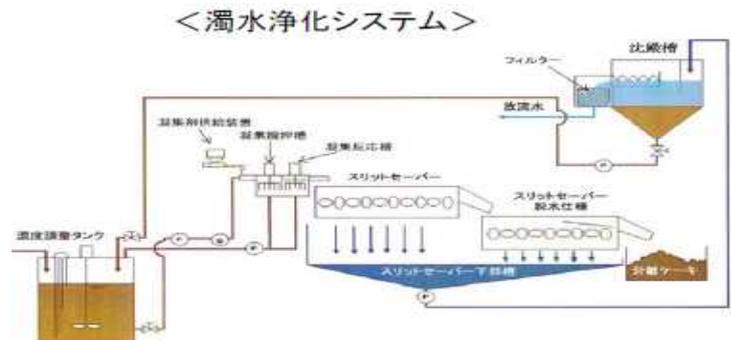
<製品例>

・[アゴクリーンP](#)は、製紙工場の「製紙カス焼却灰」を主原料とする中性無機系凝集・固化剤。[生活や産業活動等から排出される濁水の浄化や、軟弱土壌を安定化して自然環境を修復できる薬剤](#)。

- ・製品の特徴：水和反応で生じた針状結晶構造物が、軟弱土中の水分を瞬時に吸着し、有機物質、悪臭物質、重金属等を取り込み、攪拌混合後、[約30秒で急速な凝集、固化を開始](#)する。さらに化学的架橋反応により、前記物質の溶出防止をすると同時に軟弱土中の土壌粒子の結合を進行し、結晶水を浸出させる結果、固化強度が発現し、強固な団粒状構造物を形成する。この構造物は適度な保水性・透水性を有し、植生を豊かにし、砂状化を防止する。浸出水は透明で有害物質は非含有。
- ・アゴクリーンPの活用は、[製紙工場からの廃棄物量削減に寄与し、循環型社会に貢献](#)。

<活用事例>

・アゴクリーンPと株研電社の開発した目詰まりのない固液分離装置を組み合わせることで、固化処理物を減容し、処理費用削減が可能に。中小規模の事業所からの濁水、汚泥処理に展開中。



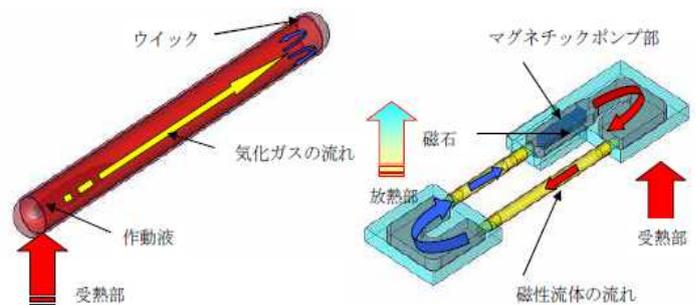
- ・連絡先：〒514 0131 三重県津市安濃町安濃 2630-1、TEL：(059) 267 1588、
FAX：(059) 267 1590、[URL：作成中](#)、[e-mail：k-egusa@bz03.plala.or.jp](mailto:k-egusa@bz03.plala.or.jp)

株式会社 ダ・ビンチ

- ・設立：1989年4月
- ・資本金：6000万円
- ・代表：代表取締役 東 謙治
- ・特筆事項：[2006.1 津田サイエンスヒルズ・アイデアコンペ入賞](#)
[2005.11 三重県「ベンチャー総合補助金」2位入賞](#)
[2005 世界一の電熱変換効率\(80%\)を誇る二段式ペルチェモジュール製品化](#)に成功
[温度差発電装置](#)の研究を東京大学と共同で開始して特許を出願。
温度差発電装置に関して関西電力と共同研究契約を締結。
- ・事業内容：(コンピューターのCPU向けや、温度差発電向けなどの)熱制御技術の受託開発

<製品例：[マグネチックヒートポンプ](#)>

- ・磁性対流の原理を利用。マグネチックポンプ部で対流を整え、圧力のベクトルを一方方向に向けているので、[磁性流体が、熱を自身に蓄積して、閉ループの管路を循環する構成が可能となった。](#) [電源不要](#)、磁場で構成された新しい形態のポンプで、熱入力に対してパッシブに作動する。



- ・ヒートパイプ(図左)は、熱を早く運び、構造的に軽い等の利点はあるが、一定熱量を超えると飽和する等の短所もあり、特にノートPC等では、水平に熱を移送する必要があるため、垂直時と比べ極端に性能が低下。また、直径、長さにより、大きく性能が変化する。現行のノートPCは、ヒートパイプがトップヒートの場合、放熱性能が著しく低下するため、CPUのクロックを遅くして発熱を抑えている。
- ・しかし、マグネチックヒートポンプでは、[多少トップヒートとなっても放熱性能への影響は少ない。](#)また、[使用温度域が広く、振動にも強い](#)等の利点がある。さらに、受熱部と放熱部は夫々一体成型し、樹脂チューブで接続するため、[接触熱抵抗が小さく、設計自由度が高い](#)等、構造的にも利点がある。

- ・連絡先：(研究所) 〒518-0701 三重県名張市鴻之台 1-35-2
TEL：0595-62-5320、FAX：0595-62-5321
E-mail：kenji_higashi@davinci-mode.co.jp、URL：<http://www.davinci-mode.co.jp>
(本社) 〒635-0071 奈良県大和高田市築山 506-6
TEL：0745-23-1441、FAX：0745-23-1442

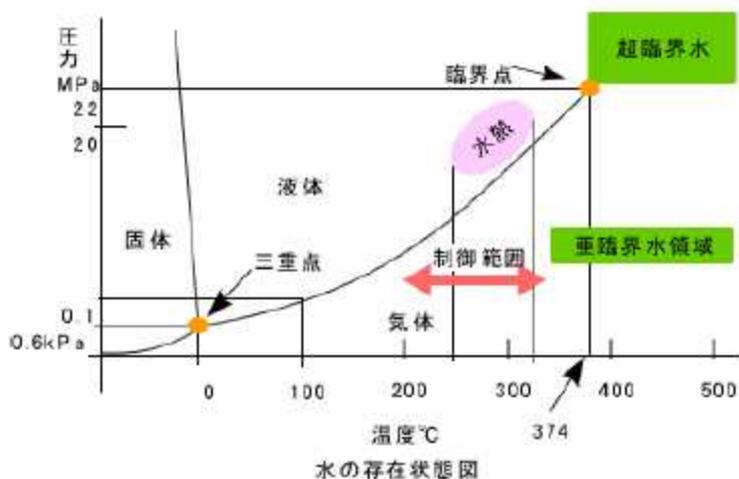
有限会社 アイ・ジャパン

- ・設立：2002年2月
- ・資本金：300万円
- ・代表：代表取締役 堀江 茂幸
- ・特筆事項：日本の和・文化・感性等を大事にしつつ、植物自然科学を通し、水熱科学を研究した製品を提供する。
- ・事業内容：亜臨界抽出装置、加水分解装置製造、および同装置を利用した植物精油抽出液製造

<製品例（亜臨界抽出植物液）>

- ・水の温度を375度以上、圧力を22MPa以上に上げると、水（液体）でも蒸気（気体）でもない超臨界水流体となるが、臨界点（375度、22MPa）より温度・圧力の低い熱水を亜臨界水といい、優れた成分抽出作用と激しい加水分解作用を持つ。この亜臨界水を利用して、従来製品より優れた”精油・葉酢液・木酢液・竹酢液”を製造する。
- ・亜臨界製法の特徴：従来の水蒸気蒸留装置*に代わり、加熱蒸気に圧力を加え亜臨界状態で木・竹に含まれる木酢液を抽出する。また、装置は、林道を使って林業の現場（山土場）に運搬することができ、これまで廃棄されていた枝葉からでも精油・木・竹酢液を造ることができる。
*…従来の製法は、炭を乾留して造る時の煙を利用するため、タール分やベンツピレン等の発ガン性環境汚染物質が含まれ、乾留液を数ヶ月間静置し、これらを沈降させて除去する必要があり、生産性も極端に低かった。
- ・この製法で生成された精油・木・竹酢液は、従来の製法の独特の臭いも無く、土壤改良剤、防虫・殺虫剤、脱臭剤、媒染剤、食品加工時の処理剤、化粧品原料、水虫治療剤など様々な活用が期待できる。

■ 亜臨界について



- ・連絡先：〒509-0223 岐阜県可児市柿下628-1
TEL：0574-56-0337 FAX：0574-56-0338
E-mail：serene@japan-net.ne.jp URL：<http://www.i-japan.rsp.jp/product/010/>

<センター情報>

【各種フォーラム】

1月29日、第6回シーズフォーラムを開催。

- ・大阪府立大学と兵庫県立大学のコラボレーションにより、「自然環境に優しいテクノロジー」をテーマに開催しました。

<講演概要>

兵庫県大・根来姫路産学官連携センター長「兵庫県立大学における産学連携の取組状況」:

- ・県大の産学連携は、地元に着しその特性を生かす方針。大学の研究レベルについては、朝日新聞の調べで、工学分野の「論文引用指数」が日本一になっている。

兵庫県大・河野教授「地球温暖化対策の技術 風力エネルギー、風と都市緑化、大気環境」:

- ・風力発電は、現在の日本では微々たる状況だが、2020年には、全世界の発電量の12%まで可能。大阪湾岸も夜通し一定の風があり活用できる。また、ヒートアイランド対策には面積の20%を占める道路の緑化も有効。但し、車両の排気拡散の関係で街路樹の密集度に注意。

兵庫県大・伊藤教授「新エネルギー用次世代低価格である『色素増感型太陽電池』の研究開発」

- ・大規模発電用太陽電池として、原料やインフラの安い色素増感系に期待が。実用化のための課題は、変換効率15%(現在11.2%)、耐久性95-120度試験(現状8%セル80度1000時間)、大面積での効率維持などがあり、素材の改良が必要。

兵庫県大・西岡教授「重金属集積性植物の探索と評価」

- ・有害金属元素やミネラルを高濃度で蓄える植物は色々あり、蓄積元素・濃度・部位次第で使い分けが必要。例えば、シンガシラは、成長が遅く亜鉛と鉛を根茎に蓄えるので、固定して使う。アオビユは、生育が早くミネラルや亜鉛を蓄積するので、亜鉛過剰地の修復に使える。

大阪府大・菅野理事「大阪府立大学における産学連携の取組状況」

- ・府大は、早くから金融機関とも連携してきた。共同研究内容は、ナノテク、バイオ、環境関係が多い。実用化例には、シャープ「ヘルシオ」、水加工、健康昆布、酸化チタン歯ブラシ、高速光伝送ノード、閉空間野菜栽培など。

大阪府大・川本教授「電界処理水によるバイオシステムの開発」

- ・水を電界処理すると、構造変化し溶存酸素濃度が急増、植物の発芽、生育促進バイオシステムに適している。さらに、養殖、滅菌・増殖、下水処理にも有効と考えられる。今後は最適化の条件を探りたい。

(次頁に続く)

大阪府大・[増田教授](#)「都市緑化による生活環境の改善と地域活性化」

- ・都市ヒートアイランド現象の緩和のため、現在、[壁面緑化（壁にネットを掛け、つる系植物ゴーヤ等を育成）](#)、[風・打水等による冷却](#)、[里山保全による環境維持等](#)の方策について、自治体・企業・NPOが協力して実験し、効果把握しながら、都市計画を進めている。

大阪府大・[池田教授](#)「省エネを推進する次世代海上輸送」

- ・いま造船業界は活況。裾野は広く東大阪の鋳物業も活況に。[船は速度こそ遅いが、少ないエネルギーで大量運搬が可能な地球環境時代のモーダルシフトの主演](#)。船は大型化=効率化、低価格で、世界的には大型クルーズ船が流り。そうしたなか、高速化と安全化を研究中。

[3月11日（火）関西経済連合会との共催で、特別フォーラム「メタボリックシンドロームへの挑戦」を開催](#)しました。

- ・2008年度以降、企業にとって対処が大きな経営課題となる「メタボリックシンドローム」について、その[第一人者](#)である[松澤住友病院院長](#)（大阪大学名誉教授）[世界最先端の研究](#)を進められ、[たんぱく質「アディポネクチン」を発見](#)された[大阪大学の前田先生](#)などをお迎えし、研究の最先端、職域の対策、食生活の改善、事業展開の可能性等について、フォーラムを開催。[約150名の方が参加されました。](#)



<講演概要>

[住友病院・松澤院長](#)「メタボリックシンドロームの概念と時代背景」

- ・いま世界で生活習慣病が問題に。腹囲に加え、[血圧](#)、[血糖](#)、[中性脂肪](#)・[コレステロール](#)の問題が多重になると危険。原因は[内臓脂肪過多](#)で、働き盛りの男性は要注意。[内臓脂肪](#)は肝臓に入り、増えると悪影響。反面、[削減効果は大きい](#)。[少しでも内臓脂肪を減らす努力を](#)。

[大阪大・前田講師](#)「メタボリックシンドロームに関する研究開発の最前線」

- ・脂肪細胞の分泌物は大抵体に悪いが、[アディポネクチン](#)は善玉。ただ、[内臓脂肪が増える](#)と[アディポネクチン](#)も減少。食生活改善で[内臓脂肪が減れば](#)、メタボも防止可能。例えば、[炭水化物でも未精製米が良い](#)とか、[適量のアルコールは善玉コレステロールを増し心臓病予防に良い](#)。
- ・また、[脂肪細胞には再生能力がある](#)。[これを活用すると、角膜等の再生医療も可能](#)なほか、[アディポネクチン分泌促進薬のスクリーニングなど、次世代治療の可能性](#)が広がる。

[みずほファイナンシャルグループ・廣部大阪健康開発センター長](#)「職域におけるメタボリックシンドローム対策の実際」

- ・対象は働き盛りの男性。統計では、[在職死亡率は年1000人に1人](#)。半数が癌、心疾患が4分の1、自殺が1割。ただ、[発症者は癌が死者の2倍](#)に対し、[心疾患発症者は5倍以上](#)、かつ[職場復帰は困難](#)。然るに、対象者の[運動不足](#)、[栄養過多](#)が顕著。（次頁に続く。）

・みずほは従来、[職員の腹囲、内臓脂肪の測定](#)を実施。超過者に[梅田 淀屋橋間の歩行を勧め](#)て来た。実行者は[腹囲、血液成分が改善](#)した。活動量計をメーカーと共同開発し活用中。

(株)精膳・[河野代表取締役](#)「メタボリックシンドロームを改善するための食生活(1)」

・社会の変化とともに食生活、農産物の質も激変。今の植物栽培や家畜育成のあり方そのものが問われるべき。また、大阪市、京都市、神戸市の三市では年齢別の死亡率が異なる(大阪が厳しい)。各地の食生活・行動パターンの違いが、そこに表れているように思われる。

大阪青山大・[山口准教授](#)「メタボリックシンドロームを改善するための食生活(2)」

・食生活のパターンと血液成分の比較・検証を行うため、良質の蛋白を摂取する、[自分で作り「食べて痩せる」料理教室](#)を開催。その結果、中性脂肪・体重・腹囲等に[顕著な改善が](#)。その調理には、磁性鍋を使い脂肪を落とした。

健康保険組合連合会大阪連合会・[置田専務理事](#)「特定健診・特定保健指導にかかる被扶養者への対応」

・特定健診・特定保健指導は、全国統一ルールであり、特に[被扶養者](#)の方々が[確実に受診](#)されることを期待する。

健康保険組合連合会・[佐藤保健部保健師業務グループマネージャー](#)「2008 年度より導入される特定健診・特定保健指導と健康保険連合会の対応」

・一般のルールは、従来のやり放しの健康診断から、[きめ細かな保健指導・国への実施報告までフォローが重視](#)されている。

[3月12日\(水\) 13日\(木\) 第7回ケータイ国際フォーラム](#)の開催に合わせて、[けいはんなラボ棟所在のベンチャー企業11社の紹介展示](#)を行ないました。

[<今後の予定>](#)

[4月24日 第7回シーズフォーラムを開催。](#)

・[大阪市立大学](#)新産業創生研究センター所長・角野昇八氏、[福井大学](#)産学連携本部長・高島正之氏から、各大学の産学連携への取り組みと、教授陣から、[耐震性・環境影響配慮等の建築構造物の技術に関するシーズ](#)の紹介を行ないます。

http://keihanna.biz/activities/seeds_forum/program_07.php

[【サイエンスカフェ】](#)

[2月6日\(水\) 第23回サイエンスカフェを開催。](#)(於けいはんなプラザ・ラボ棟2階「天の川」、16:30~)

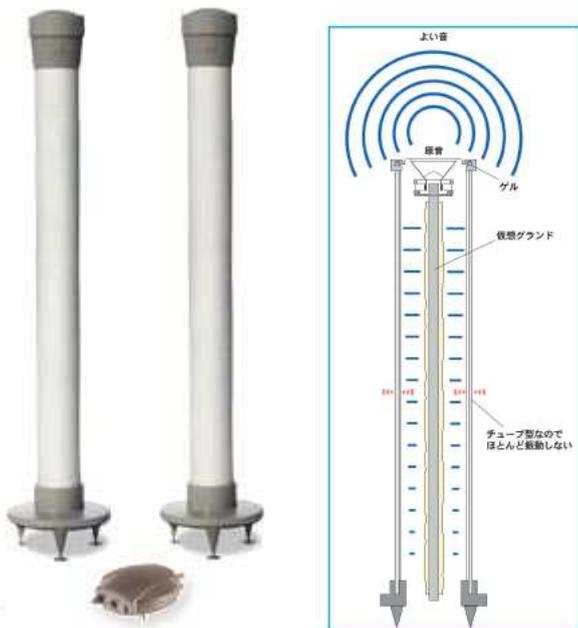
・[\(株\)アライドレーザ](#)・代表取締役・有澤孝氏に「レーザー応用機器は社会に受け入れられるか」と題して、ご講演の後、懇談しました。

<今後の予定>

4月2日 第24回けいはんなサイエンス・カフェを開催

・平成20年4月2日(水)午後4時30分~7時、会場 けいはんなプラザ・ラボ棟2F「天の川」にて、**㈱タイムドメイン**社長・由井 啓之氏を迎え、リアルな音像と音場が再現でき、雰囲気まで再現されるタイムドメインオーディオの理論と製品についてお話を伺います。

<http://keihanna.biz/activities/cafe/cafe24.php>



従来のスピーカーは、周波数応答が広くフラットに再現されれば万全であるという、「周波数領域理論」による視点で設計されていますが、同社の「タイムドメイン理論」はスピーカーユニットから発せられる音の振動制御に注視した全く新しい設計で、変化する音の波形そのものを正しく再現することが可能です。

けいはんなを拠点とする同社の理論と技術は、三洋電機、富士通テン、日立マクセルなどの製品にも採用され、好評を博しています。

<人気商品：タイムドメイン・ミニ>



<事業化情報>

芋焼酎の絞り粕（もろみ）の活用について

- ・最近ブームの芋焼酎ですが、その製造工程で発生する絞り粕（もろみ）は、2007年11月1日の我が国における「ロンドン条約議定書」の発効*により、従来実施されていた海洋投棄が禁止となり、代替措置としての焼却処分の費用や焼却による環境影響が懸念されています。

*...「1972年の廃棄物その他の物の投棄による海洋汚染の防止に関する条約の1996年の議定書」（「ロンドン条約議定書」）は、1996年に採択されたが、議定書締結の準備としての我が国における法整備が、2007年4月の海洋汚染防止法改正法及び関係法令の施行まで時間を要したため、2007年10月2日に閣議決定。同11月1日に発効となったもの。

- ・これについて、鹿児島大学と大手焼酎メーカーの西酒造が、もろみを液部と固形部に分けるプロセスを共同研究していたところ、弊センターのエキスパート・ボランティア、河野武平氏の仲介により、もろみを分離し加工した漬床に鹿児島特産の黒豚の肉を漬けた商品が完成、その販路開拓が実現しつつあります。これは、九州経済産業局の地域資源活用型研究開発事業に採択されました。

- ・3月11日に開催した弊センターの「特別フォーラム」において、磁性鍋を用いた豚肉製品の調理と試食を行なったところ、「非常に美味しい」と好評でした。今後、本格的な商品化と拡販を進めていく予定です。



<会員の皆さまへ>

弊センターの活動・会員サービスなどへのご意見・ご要望がございましたら、下欄にご記入の上、FAXまたはE-mailにて返信下さいますよう、心からお願い申し上げます。

《 FAX：06-6441-9347 E-mail：info@keihanna.biz 》

御社名

部署・役職

お名前

ご連絡先

（ご意見・ご要望）

（以上）